

MAX

取扱説明書

プロ用

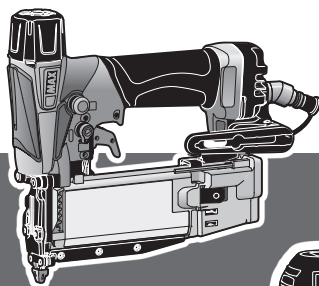
このたびは、マックス釘打機スーパーネイラをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の手扱にあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

警告

●使用前に必ず取扱説明書を読む。

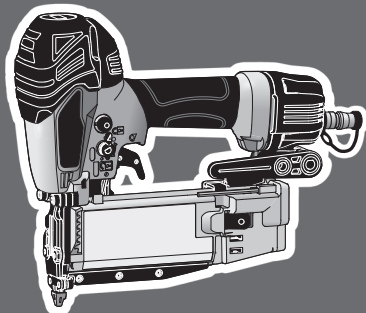
この取扱説明書は常時内容が確認できるように保管してください。

本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。



マックス釘打機スーパーネイラ
HA-50P4(D)

マックス釘打機
TA-250P3(D)

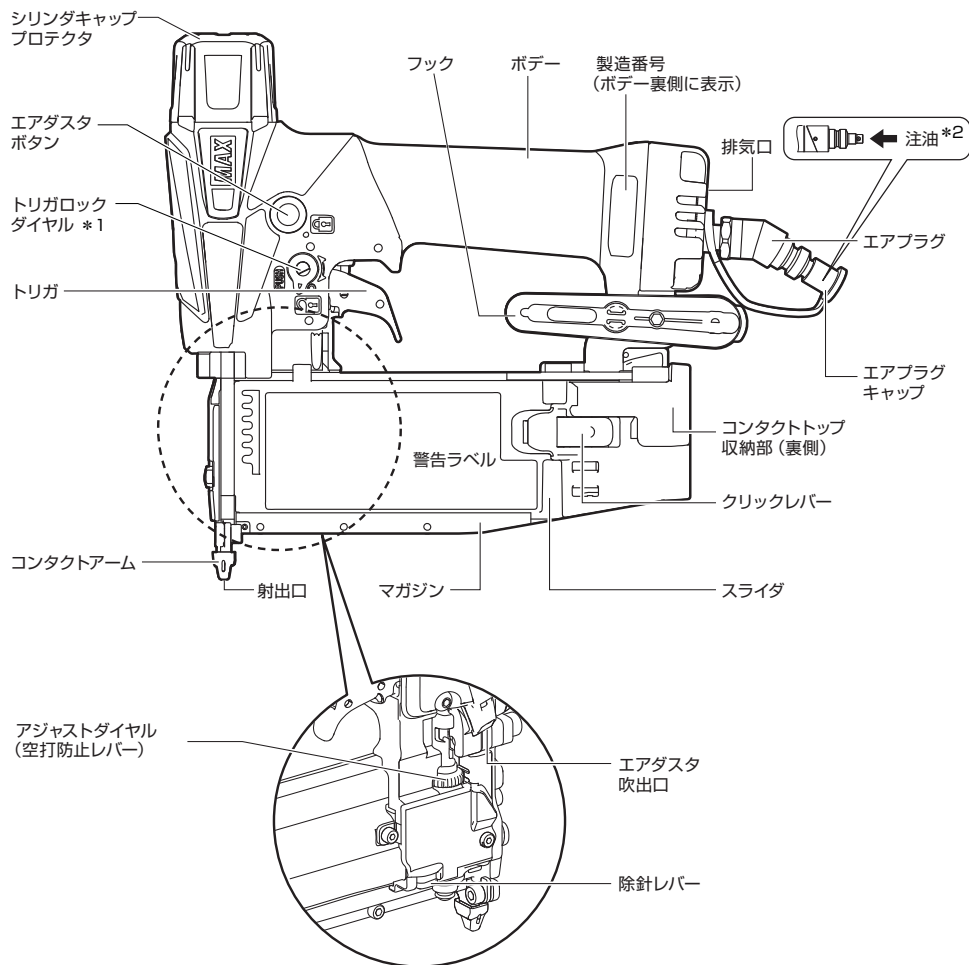


目 次

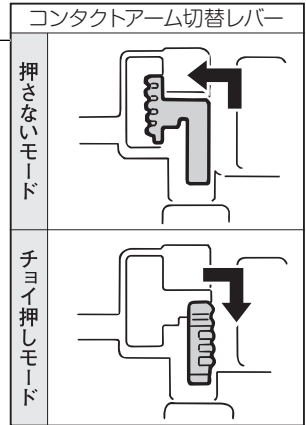
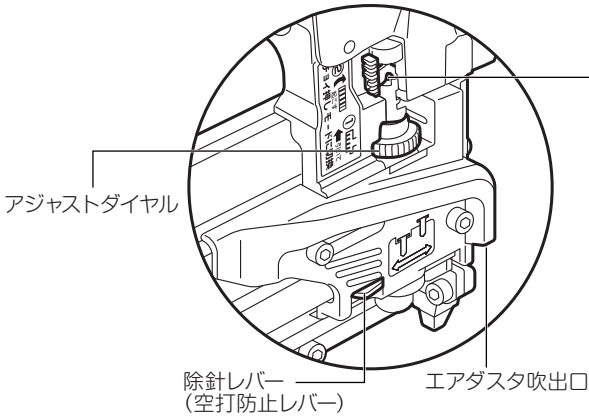
各部の名称	3, 4
安全作業のために	5~14
仕様及び付属品	15
使用方法	16~25
コンタクトアームの動作確認	16
ピンネイルの装填方法	16, 17
打ち方	18, 19
フック幅、フックの方向の変え方	20
シリンダキャッププロテクタ交換方法	21, 22
コンタクトトップの交換方法	23
エアダスタの使用法	24, 25
配管についての注意	26, 27
エアホースの接続	28
打込状態の確認と空気圧・アジャスタの調整	29, 30
ピンネイルづまりの直し方	31, 32
保守・点検	33
保証、アフターサービスについて	34
保証について	34
アフターサービスについて	34

各部の名称

※以降、イラストはHA-50P4(D)で説明しています。



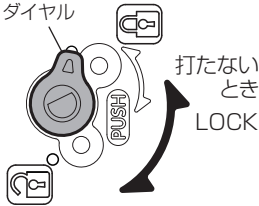
※TA-250P3(D)の場合



***1 トリガロックダイヤル**

押し回すことでロックとアンロックを切り替えます。

トリガロックダイヤル



打つとき
UNLOCK

打たない
とき
LOCK

***2 注油**

⚠ 注意

指定オイルを注油する



マックス指定
オイル
(別売品)

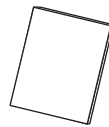
付属品



保護メガネ



キャリングケース



取扱説明書



ジェットオイル(油入)

※中ぶたを外して使用してください。

⚠ 安全作業のために

本機は、木材およびそれに類した材料を木材に止めることを目的とした釘打機です。指定以外の用途、使用方法是重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

■表示の意味について

ご使用上の注意事項は、**⚠ 警告**、**⚠ 注意** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**⚠ 注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

絵表示について



この記号は「してはいけないこと」を意味しています。
この記号の中や近くが表示は具体的な禁止内容です。

作業前

⚠ 警告

使用の際は、作業者およびまわりの方も必ず保護メガネを着用する。

釘打ち作業をする時、打ち損じのピンネイルがはね返り、眼に入ると失明するおそれがあります。作業する本人はもとより まわりの方も必ず保護メガネを着用してください。



防音保護具を着用する。

釘打ち作業をする時、排気音や排気エアから耳を守る ため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。



作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。



⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

HA-50P4 (D) 使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。

本機は使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。本機使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必ず必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと、異常燃焼をおこし、爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。

TA-250P3 (D) 使用の際は、エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

本機を絶対に改造・分解しない。

本機を改造・分解すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

エアホースを接続するときは誤って作動させないように下記のことを厳守する。

- ・トリガをロック（引けないよう固定）する。
- ・射出口に触れたり、対象物に当たった状態にしない。
- ・射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。

固定ラバーがしっかり装着されている事を確認する。〈TA-250P3 (D)〉

固定ラバーがはがれているとシリンダキャッププロテクタを持った時に本体が落下する恐れがあります。（8ページ参照）異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

⚠ 安全作業のために

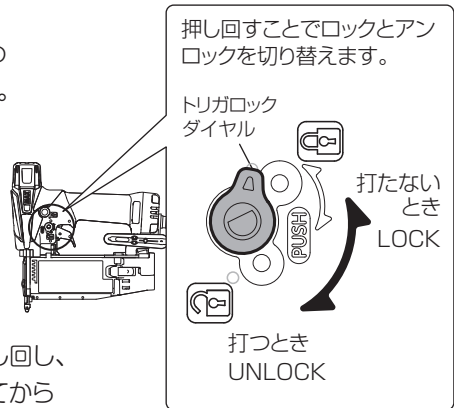
⚠ 警告

安全装置について

釘打作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●トリガロック装置

本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにすることができる装置です。

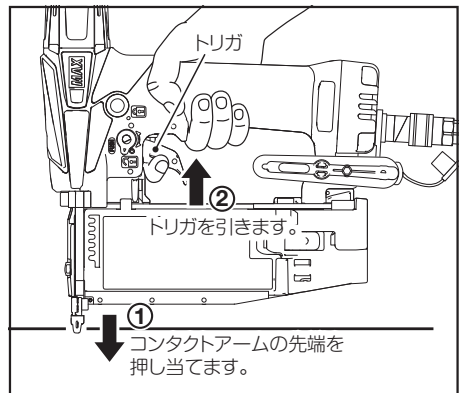


作業を行う際はトリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK（アンロック）の位置にセットしてから作業を開始してください。

ピンネイルを打っているとき以外はトリガロックを押し回し、LOCK（ロック）の位置にセットしエアホースをはずしてください。

●メカニカル安全装置（シーケンシャルトリガ）

これはコンタクトアーム、そしてトリガの順に作動させないとピンネイルを発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけのときや、コンタクトアームを打込対象物に当てただけのとき、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させたときはピンネイルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いたときのみピンネイルは発射されます。



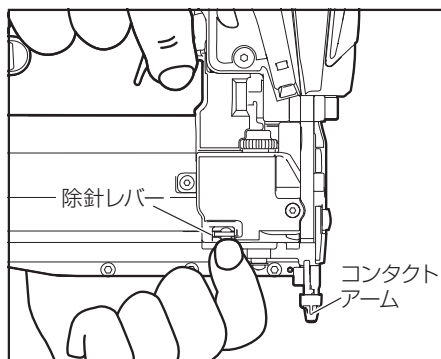
⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

※本機は空打防止装置が装備されていますのでピンネイルを装填しない状態ではコンタクトアームは動きません。

安全装置の確認をする場合やコンタクトアームの動きを確認する場合は、除針レバーを押し、空打防止装置を解除しながら行ってください。

※ピンネイルを装填しない状態で確認してください。



使用前に安全装置が完全に作動するか必ず確認する。

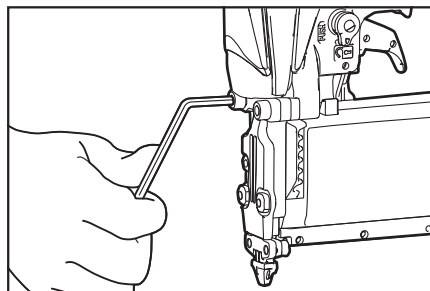
点検により異常が発見された場合、ただちに使用を中止してください。

修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス株式会社にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

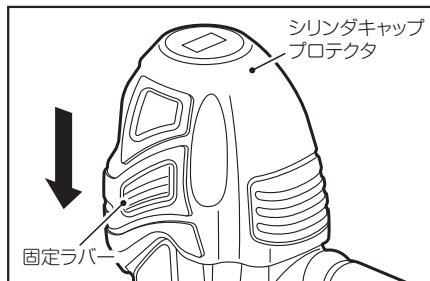
1. エアホース接続前の点検

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

- ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
- 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
- コンタクトアームがスムーズに動くか。
- トリガをロック (引けないように固定) できるか。



- 固定ラバーがしっかり装着されていることを確認する。外れているとシリンダキャップを持った時に本体が落下する恐れがあります。(TA-250P3 (D))



⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱へ点検・修理に出してください。
(コンタクトアームの確認のときは空打防止を解除してください。19ページ参照)

2. エアホース接続時の点検

エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはピンネイルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

- エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
- エアホースを接続しただけでエアダスタが作動しないか。
- エアもれや異常音がしないか。

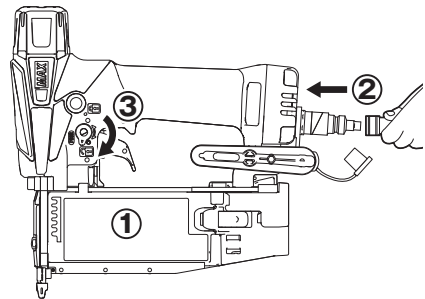
エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱に点検・修理に出してください。

3. 安全装置の点検

ピンネイルを打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。

※本機は空打防止装置が装備されていますので、ピンネイルを装填しない状態ではコンタクトアームは固定され動きません。

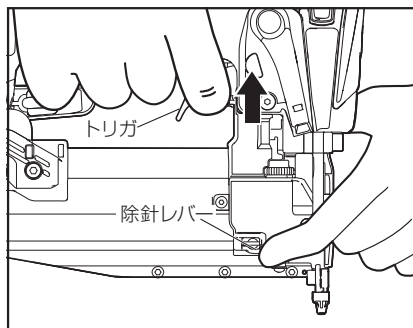
- ①作業に入る前に本機にピンネイルが装填されていないことを確認してください。
- ②本機にエアホースを接続します。
- ③トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK (アンロック) の位置にセットしてください。



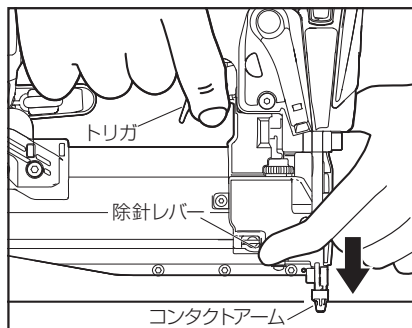
⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

④ まず、除針レバーを押しながらトリガだけ引いてください。



⑤ 次にトリガから指を離し、除針レバーを押しながらコンタクトアームを材料に押しあててください。



このとき、本機が作動する場合は安全装置が異常です。

そのまま使うと、事故や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

不要な空打ちは絶対に行わない。

除針レバーを押すと空打ち防止機構が無効になります。不要な空打ちは、ドライバやコンタクトアーム先端の磨耗や損傷、及びその他各部に悪影響を与えますので絶対に行わないでください。

安全装置の確認の際にはコンタクトアームの先端付近には絶対に手を近づけない。

万が一安全装置に異常があった場合、思わぬ怪我をする場合があります、非常に危険です。

▲ 安全作業のために

作業中

▲ 警告

指定ピンネイルを必ず使用する。

指定されたピンネイルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のピンネイルをご使用ください。(使用ピンネイルは15ページ参照)

作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だと、つまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

使用空気圧を必ず守る。

本機の使用圧力範囲はHA-50P4 (D) が1.2~2.3MPa (約12~23kgf/cm²)、TA-250P3 (D) が0.45~0.8MPa (約4.5~8kgf/cm²) です。対象物によりその範囲内で調節し、使用してください。HA-50P4 (D) は2.3MPa (約23kgf/cm²)、TA-250P3 (D) が0.8MPa (約8kgf/cm²) を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ピンネイルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたピンネイルが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。



向い合わせの釘打ちは絶対にしない。

向い合って釘打ち作業をすると、打ち損じたピンネイルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせの釘打ちは絶対にしないでください。



射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったピンネイルや木の節などに当たった場合ピンネイルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

機体の反発に注意する。

硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとピンネイル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

移動するとき、作業を中断するとき、また、フック使用時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。コンタクトトップ着脱のときは、ピンネイルも取り除く。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には、思いがけない事故につながります。また、作業中のピンネイル装填、調整及びピンネイルづまりを直すとき、誤ってピンネイルを発射するおそれがあり、危険です。

落下やそれに類する衝撃を機械本体に与えた場合、安全装置等が正常に作動する事を確認してから作業を再開する（7ページ参照）。

異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス(株)にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

次のときは、本機を使用しない。事故の原因になります。

- ・ 疲れているとき、身体が不調なとき。
- ・ 酒類や薬物を飲んで正常な動作ができないとき。

用途にあった作業に使用する。

本機は木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。指定された用途以外には使用しないでください。

子供を近づけない。

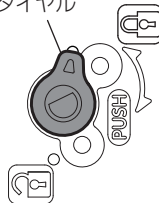
作業者以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

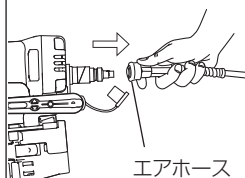
移動するとき
作業を中断するとき

❗ トリガをロックする

トリガロック
ダイヤル



❗ エアホースを外す



安全作業のために

作業後

警告

作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

TA-250P3 (D) の場合は、ダスタボタンを押しながらエアホースをはずさないでください。本機内部にエアが残る可能性があります。

作業終了時には必ずピンネイルを抜き取る。

ピンネイルをマガジン内に残しておく、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のピンネイルを抜きとってください。

本機は注意深く手入れをする。

安全に能率よく作業していただくために、本機は常に手入れをし、清潔に保ってください (33ページ参照)。

使用しない場合はきちんと保管する。

乾燥した場所で、子供の手の届かない高いところ、または鍵のかかるところに保管してください。

⚠ 安全作業のために

屋外作業について

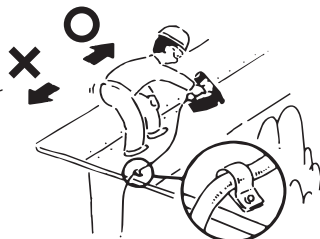
⚠ 警告

足場の安全性を十分に確認する。

足場を使つての高所作業の場合、釘打ち作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。



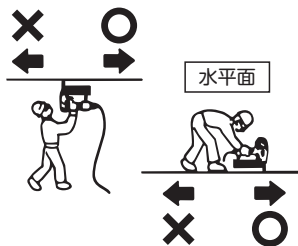
直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

水平面の釘打ち

前進姿勢で釘打ち作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



垂直面の釘打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へ釘打ち作業を行ってください。下から上に打つと足場などに頭をぶつけるなどの危険があります。
※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。



傾斜面の釘打ち

下から上に向かって前進姿勢で釘打ち作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

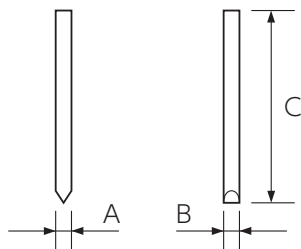



仕様及び付属品

商 品 名	マックス釘打機スーパーネイラ	マックス釘打機
商 品 記 号	HA-50P4 (D)	TA-250P3 (D)
寸 法	(H) 209 × (W) 64 × (L) 261 mm	(H) 218 × (W) 66 × (L) 267 mm
質 量	1.2kg	1.3kg
ピンネイル装填数	100本(最大約130本)	
使用空気圧範囲	1.2~2.3MPa(約12~23kgf/cm ²)	0.45~0.8MPa(約4.5~8kgf/cm ²)
使用エアコンプレッサ	マックススーパーエア・コンプレッサシリーズ	マックスエア・コンプレッサ
使用エアホース	マックススーパーエア・ホースシリーズ	内径7mm以上、長さ30m以内
使用オイル	タービン油2種ISO VG32 (JIS K 2213)	
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置	
装 備 品	六角棒スパナ3mm、シリンダキャッププロテクタ 溝打用コンタクトトップ、平打用コンタクトトップ	
付 属 品	キャリングケース、ジェットオイル(油入)、保護メガネ	

〈使用ピンネイルサイズ〉

(単位:mm)



ピンネイル	A	B	C	先端形状
P15F3 カラー	0.6	0.6	15	 チゼル ポイント
P19F3 カラー	0.6	0.6	19	
P25F3 カラー P25F3-S カラー	0.6	0.6	25	
P30F3 カラー P30F3-S カラー	0.6	0.6	30	
P35F3 カラー P35F3-S カラー	0.6	0.6	35	
P45F3 カラー P45F3-S カラー	0.6	0.6	45	
P50F3 カラー	0.6	0.6	50	

-S:ステンレス

⚠ 警告

- 指定ピンネイルを必ず使用する。
指定されたピンネイルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となります。

使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

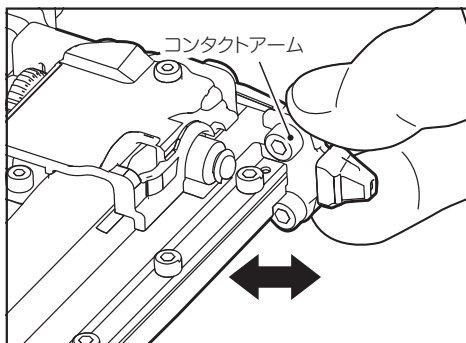
コンタクトアームの動作確認

⚠ 警告

- コンタクトアームの動作確認をするときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞく。

コンタクトアームが正常に作動するか確認してください。正常に作動しない場合は使用せず、お買い求めの販売店を通じてマックスエンジニアリングサービス㈱に点検・修理に出してください。

- ①トリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞきます。
- ②コンタクトアームをつまんで上下に動かし、スムーズに動けば正常です。



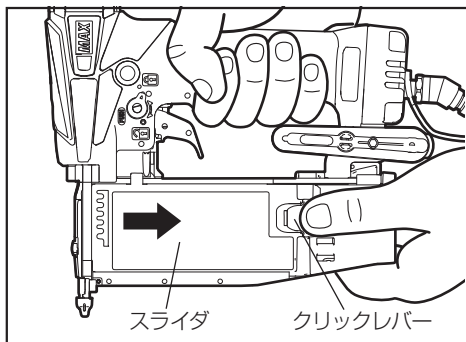
ピンネイルの装填方法

⚠ 警告

- ピンネイルを装填する時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

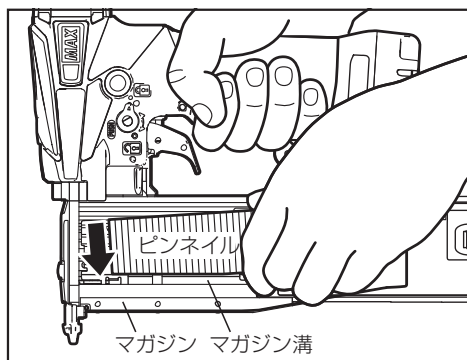
手順

- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②クリックレバーを押しながら、スライダを引き出します。



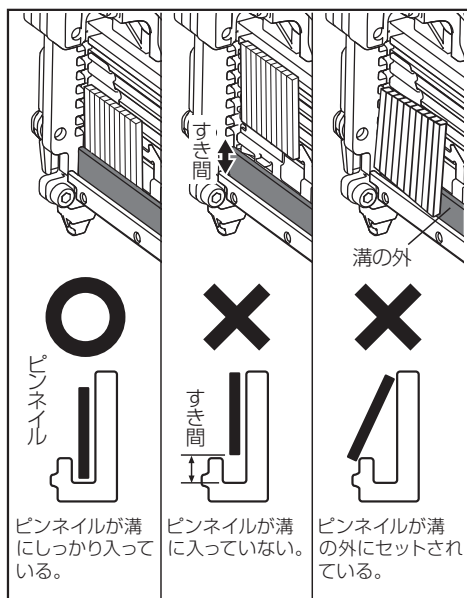
- ③マガジン内にピンネイルを入れます。
この時、ピンネイルの足先をマガジン下部溝の奥までしっかり入れてください。

※特に短いサイズ(15、19mm)は、マガジン下部の溝に入りづらいので確実に足先が入っていることを確認してください。



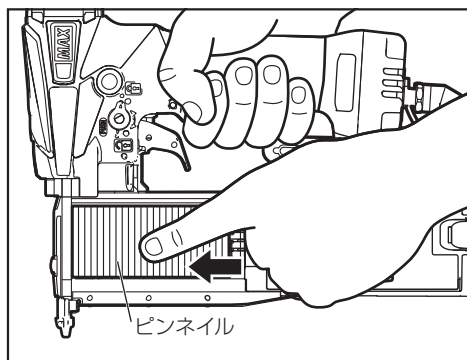
⚠ 注意

- ピンネイル足先にすき間があるままスライダをセットするとピンネイルつまりや本機の故障の原因となります。
- 足長さの違うピンネイルを同時に装填しないでください。
- 本数の少ないピンネイル(特に15・19mm)を使用すると、ピンネイルつまりの原因となります。
- 本数の少ないピンネイルを一度に数連装填するとピンネイルのつまりの原因となります。



- ④マガジン内のピンネイルを指で射出口内へ送り込みます。

- ⑤スライダを閉じます。



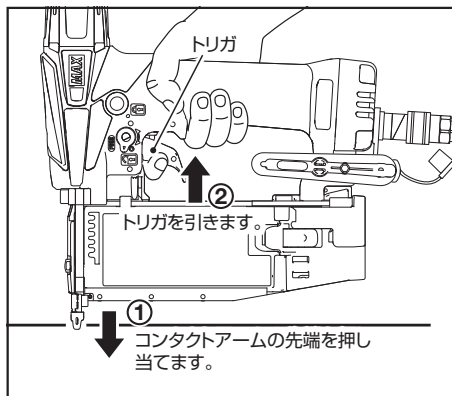
打ち方

本機はシーケンシャルトリガを採用しています。シーケンシャルトリガは、コンタクトアームを対象物に押し当てた後、トリガを引く単発打ち専用の構造となっておりますので狙った場所に一発一発より一層確実に打つことができます。また、その結果として偶発の思わぬ事故から身を守り安全に作業することにつながります。

手順

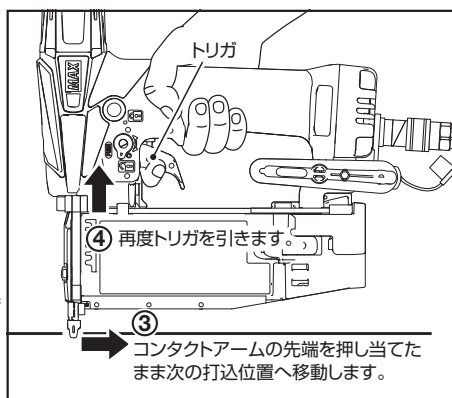
<打ち方その1>

- 1 トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK (アンロック) の位置にセットしてください。
- 2 まず、ピンネイルを打とうとする場所にコンタクトアームの先端を押し当てます。
(1)
- 3 次に、トリガを引くとピンネイルを発射します。(2)
- 4 トリガを引いたままで、再度コンタクトアームを対象物に当ててもピンネイルは発射されませんので、トリガから指をいったんはなし、2、3の動作を繰り返し行ってください。



<打ち方その2>

- 1 トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK (アンロック) の位置にセットしてください。
- 2 ピンネイルを打とうとする場所にコンタクトアームの先端を押し当ててからトリガを引くとピンネイルを発射します。
- 3 トリガから指をはなし、コンタクトアームの先端を対象物に押し当てたまま次の打ち込み位置へ移動します。(3)
- 4 再度、トリガを引くとピンネイルを発射します。(4)



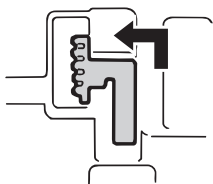
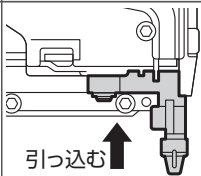
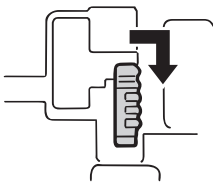
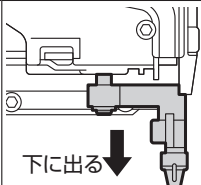
警告

- 作業前、シーケンシャルトリガが上記通りの作動をするか必ず確認する。
- シーケンシャルトリガの各部品が摩耗または消耗していないか必ず点検して、異常がある場合は本機を使用しない。
異常がある場合はお買い求めの販売店またはマックスエンジニアリングサービス㈱に点検・修理に出してください。

●押しかた選べる機構 (TA-250P3(D)に搭載)

(コンタクトアーム切替機構)

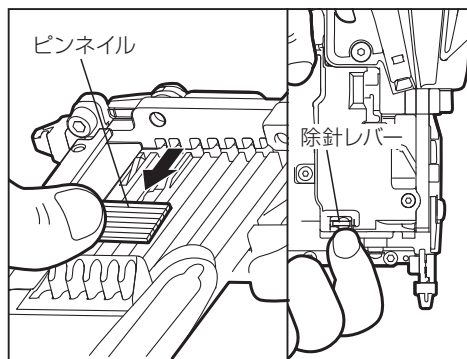
TA-250P3(D)はコンタクトアーム切替レバーにより、コンタクトアーム位置を変更する事ができます。

	コンタクトアーム切替レバー	コンタクトアーム先端の状態	打ち方
押さないモード			コンタクトアームを部材に軽く当てて、トリガを引くだけでピンネイルを発射する事ができます。部材を傷つけずに狙った場所に正確に打つ事ができます。
チョイ押しモード			コンタクトアームを部材に少しだけ押し当ててトリガを引く事でピンネイルを発射する事ができます。コンタクトアームがクッション的な役割をはたし、従来機同様の使い方ができます。

(出荷時は「押さないモード」にセットされています。)

●空打防止機構

本機は空打防止機構がついています。マガジン内にピンネイルがはいっていない場合、及びピンネイル残量が約12本になった場合、トリガを引いても動作しません。ピンネイルを取り出すときは、トリガをロックし、エアホースをはずしてから除針レバーを押しながら取り除いて解除してください。



⚠ 注意

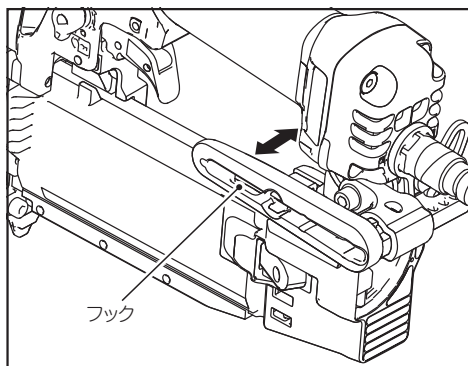
●除針レバーを押しながら打つと、ピンネイルが詰まったりし、故障の原因となりますので絶対にしないでください。

フック幅、フックの方向の換え方

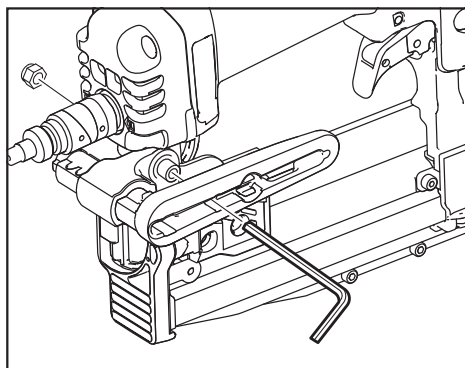
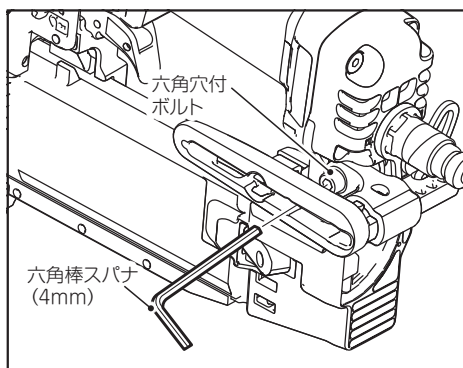
〈フック幅の変更〉

フックをスライドさせる事でフック幅を
変える事ができます。

※キャリングケース収納時はフック幅を
小さくした状態で収納してください。



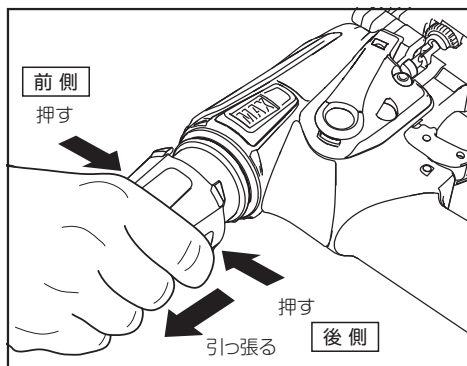
フックは反対側に取り付けることができます。付け変えるときは、六角棒スパナでボルト
をはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。



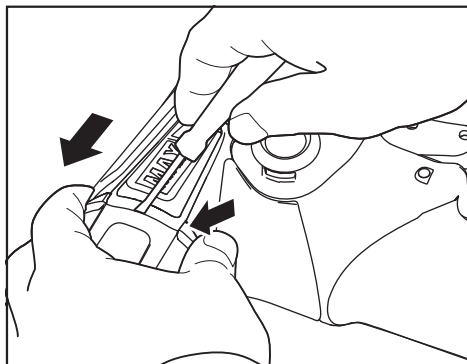
シリンダキャッププロテクタ交換方法〈HA-50P4 (D)〉

手順

- ① シリンダキャッププロテクタの前後をつかみ、押しながら本体上方向に引っ張ってください。



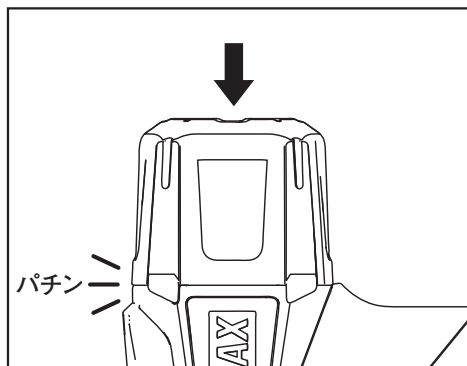
取れない場合は、図の位置にマイナスドライバを差し込み、シリンダキャッププロテクタを浮かせた状態で引っ張ってください。



⚠ 注意

- ボデーを傷付けない様、気を付けてください。

- ② 新しいシリンダキャッププロテクタを、上からパチンと音がるまで取り付けてください。



シリンダキャッププロテクタ交換方法〈TA-250P3(D)〉

手順

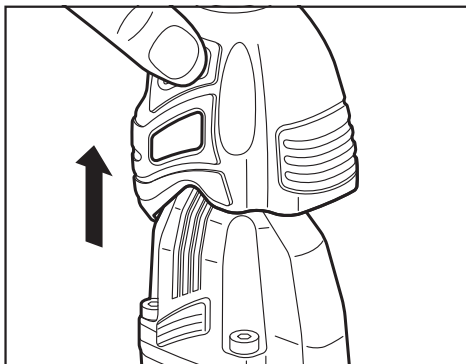
- ①シリンダキャッププロテクタに指を差し入れ、左右の固定ラバーから外します。



- ②上方方向にシリンダキャッププロテクタを引っ張り取り外します。

⚠ 注意

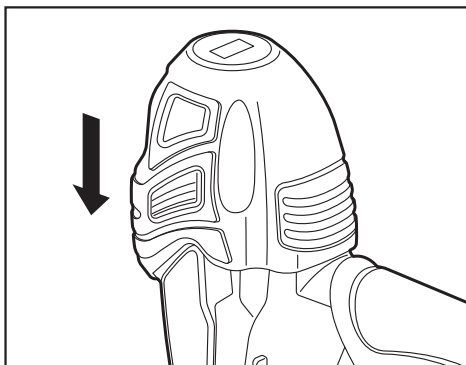
- 固定ラバーから外さずに無理に引っ張らないでください。固定ラバーがはがれてシリンダキャッププロテクタを固定できなくなります。



- ③新しいシリンダキャッププロテクタを押し込み、固定ラバーがしっかりとまっぴている事を確認してください。

⚠ 警告

- 固定ラバーがしっかりと接着されている事を確認する。

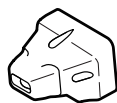


シリンダキャッププロテクタをお求めの際は、お買い求めの販売店または、マックスエンジニアリングサービス(株)にご相談ください。

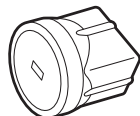
コンタクトトップの交換方法

〈コンタクトトップの選定〉

本機には、2種のコンタクトトップが装備されています。必要に応じてコンタクトトップを付け換えてください。



溝打ち用
巾木の溝打ちに適しています。



平打ち用
杉などの柔らかい部材への平打ちに適しています。

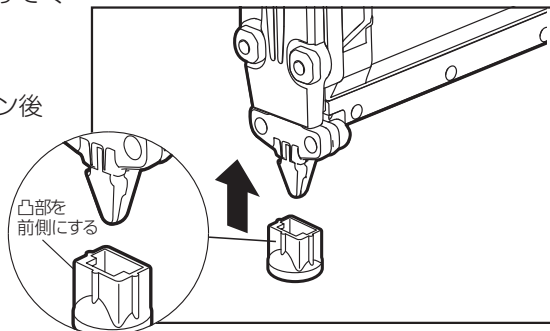
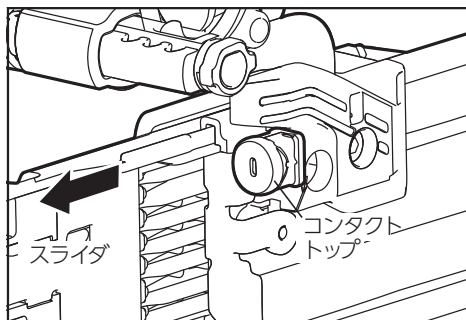
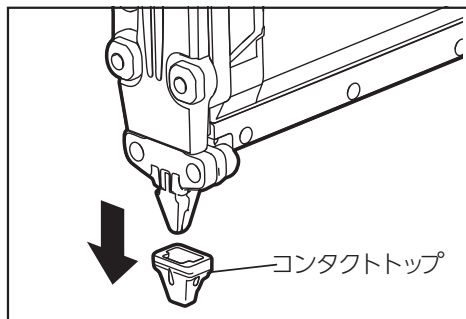
⚠ 警告

- コンタクトトップを交換する際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞく。

手順

- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②ピンネイルをマガジン内より抜き取ります。
- ③コンタクトトップを引っ張り、はずします。
- ④スライダを引き出し、マガジン後部に取り付けてあるコンタクトトップをはずします。
- ⑤作業に合わせて適切なコンタクトトップを先端に差し込み、確実に取り付けてください。
- ⑥外したコンタクトトップは、マガジン後部に取り付けておくことが出来ます。

※コンタクトトップには向きがあります。正しい方向で取り付けてください。



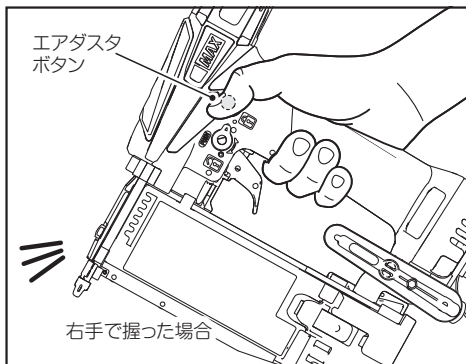
エアダスタの使用法〈HA-50P4 (D)〉

警告

- 射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。
- エアダスタを使用する時は、必ずトリガをロックする。
- エアダスタボタンを押したままでエアホースをはずさない。

① トリガロックをロックの位置にセットしてください。

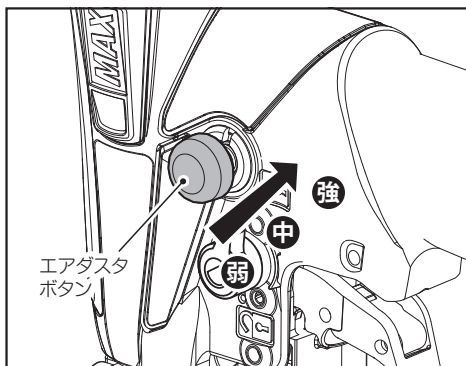
② エアを吹きたい所に吹き出し口を向けて、エアダスタボタンを押してください。



※HA-50P4 (D) のエアダスタには風量調整機能がついています。エアダスタボタンの押し加減でお好みの風量に調整して使用してください。

〈エアダスタの風量目安〉

エアダスタボタンの押し加減	風量
少し押す	弱い風量
中間まで押す	中間の風量
奥まで押す	強い風量



注意

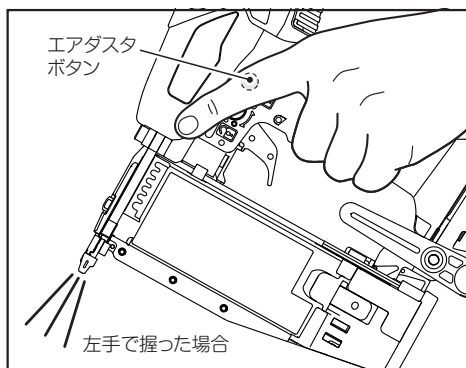
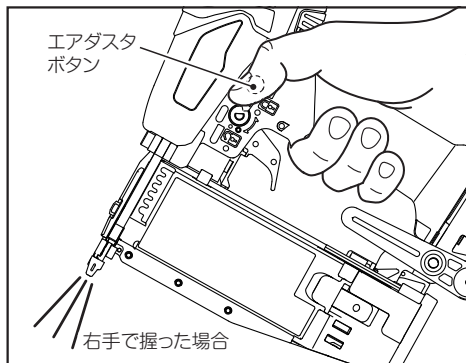
- エアダスタボタンを横（側面）から押すと、エアが吹き出し口から少し漏れる場合がありますが、これは異常ではありません。
- エアダスタを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。
- 注油した直後にエアダスタを使用すると、オイルが吹き出し口より飛散する場合があります。10～30発程度実打してからエアダスタを使用してください。

⚠ 警告

- 射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。
- エアダスタを使用する時は、必ずトリガをロックする。
- エアダスタボタンを押したままでエアホースをはずさない。

① トリガロックをロックの位置にセットしてください。

② エアを吹きたい所に吹き出し口を向けて、エアダスタボタンを押してください。



⚠ 注意

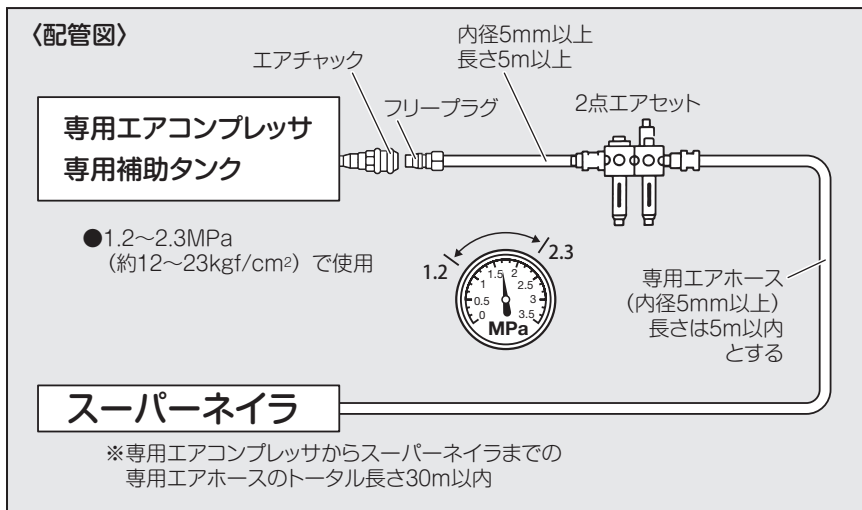
- エアダスタを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。
- 注油した直後にエアダスタを使用すると、オイルが吹き出し口より飛散する場合があります。10～30発程度実打してからエアダスタを使用してください。

配管についての注意

〈HA-50P4 (D)〉

警告

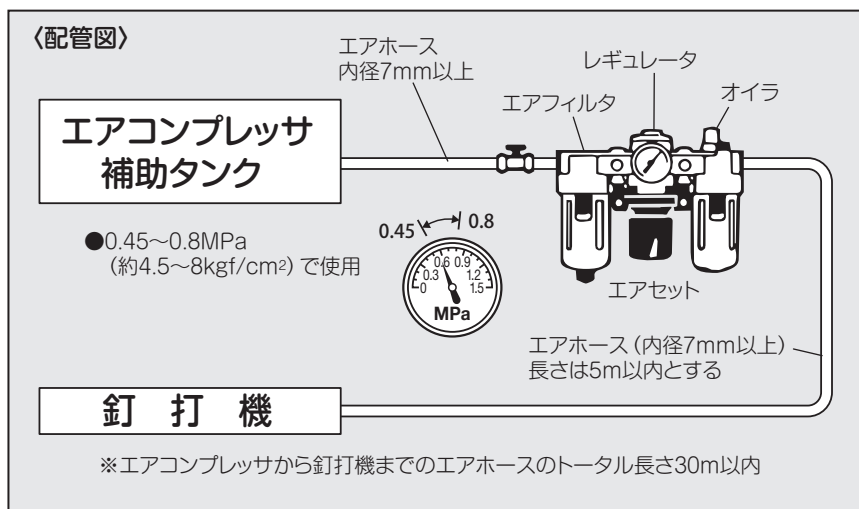
- 本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。本機は、使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。また、本機、専用エアコンプレッサ、専用エアホースとも、フリープラグ、エアチャックが専用のものとなっており市販の物とは互換性がありませんので、他の機器との接続はできない仕様になっております。改造・加工等して他の機器を使えるように絶対にしないでください。
- 動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）等は絶対に使わないでください。
- エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- 接続するエアホースもマックス専用エアホースを使用してください。専用エアホースは内径5mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径5mm以上、長さ5m以内で使用してください。



警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- 動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。
高圧ガス (例:酸素、アセチレン等) 等は絶対に使わないでください。
- エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- エアホースは内径7mm以上、長さ30m以内で使用してください。
エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ5m以内で使用してください。



エアホースの接続

⚠ 警告

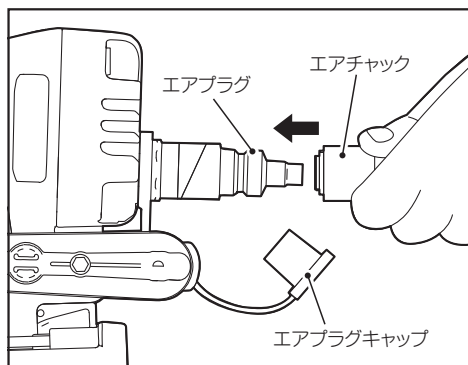
●エアホース接続の時は必ず厳守する。

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

- トリガをロックする。
- コンタクトアームやエアダスタボタン、エアダスタ吹き出し口に触れない。
- コンタクトアームを対象物に当たった状態にしない。
- 射出口やエアダスタ吹き出し口を人体に向けない。

手順

- ①トリガをロックします。
- ②エアプラグからエアプラグキャップをはずします。
- ③エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。



⚠ 警告

●作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

打込状態の確認と空気圧・アジャスタの調整

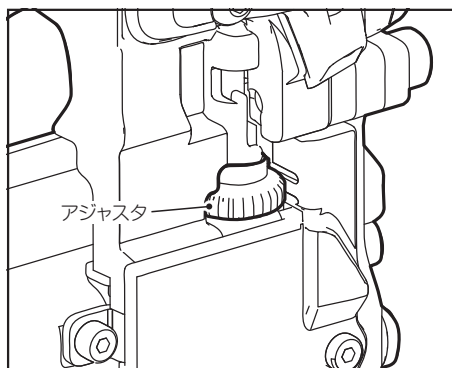
本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端に保持力が低下しますので、作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。

警告

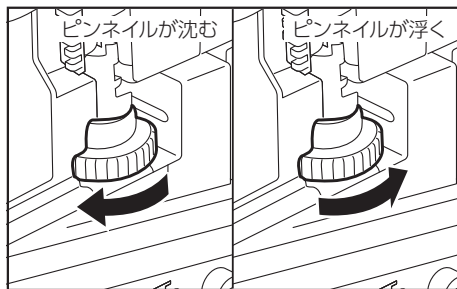
- 調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- HA-50P4 (D) は2.3MPa (約23kgf/cm²)、TA-250P3 (D) は0.8MPa (約8kgf/cm²) を超えた圧力では絶対に使用しない。
- 調節する時は射出口を下に向け、顔や手、足などの人体がないことを確認する。

手順

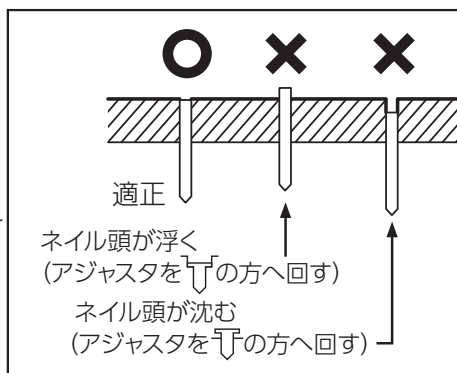
- 1 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 2 ピンネイルを装填します。
- 3 エアコンプレッサの圧力を
HA-50P4 (D) は
1.5MPa (約15kgf/cm²)、
TA-250P3 (D) は
0.6MPa (約6kgf/cm²)
にセットします。
- 4 本機にエアホースを接続し、トリガロック
ダイヤルをUNLOCK (アンロック) に
セットします。
- 5 アジャスタの調整 (ピンネイルの打込
調整) の前に一度テスト打ちしてくだ
さい。打込みたい深さを確認します。



- ⑥トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ⑦ピンネイルを取り出します。
- ⑧アジャスタを回し調整します。
※アジャスタを1回転させると約1mm上下します。



- ⑨本機にピンネイルを装填します。
- ⑩エアホースを接続し、トリガロックダイヤルをUNLOCK (アンロック) にセットしてさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。
- ⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。
- ⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。



※足長さの長いピンネイル (45・50mm) を使用する時は、空気圧を高め、
HA-50P4(D)・・・1.5～2.3MPa (約15～23kgf/cm²)
TA-250P3(D)・・・0.6～0.8MPa (約6～8kgf/cm²)
に設定し、使用してください。

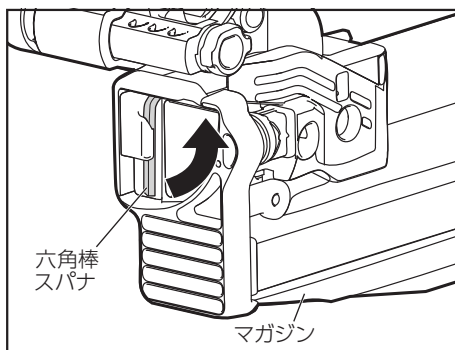
ピンネイルづまりの直し方

⚠ 警告

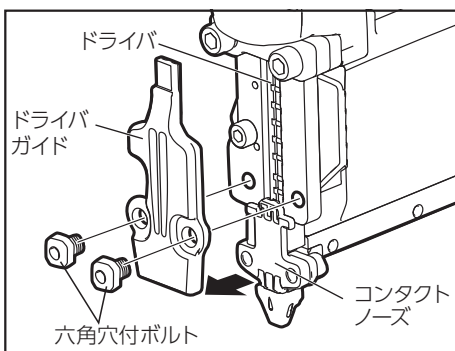
- ピンネイルづまりを直すときは、必ずトリガをロックし、エアホースをははずす。

手順

- ①トリガをロックし、エアホースをははずします。
- ②クリックレバーを押しながら、スライダを引き出し、ピンネイルをマガジン内より抜き取ります。
- ③マガジン後部に収納してある六角棒スパナを矢印方向に回し、引き抜きます。

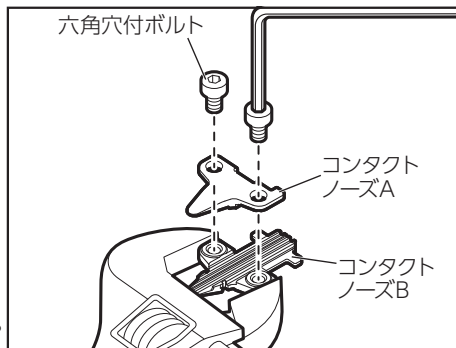


- ④ドライバガイドをとめている六角穴付ボルトを外して、ドライバガイドを外します。
- ⑤詰まったピンネイルを取り除きます。



⑥コンタクトノーズ内にピンネイルが詰まっている場合、コンタクトノーズを外してコンタクトノーズの側面をスパナやモンキーレンチなどではさみ、六角穴付ボルトを外し、詰まったピンネイルを取り除きます。

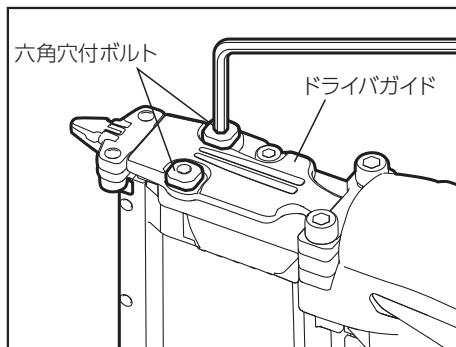
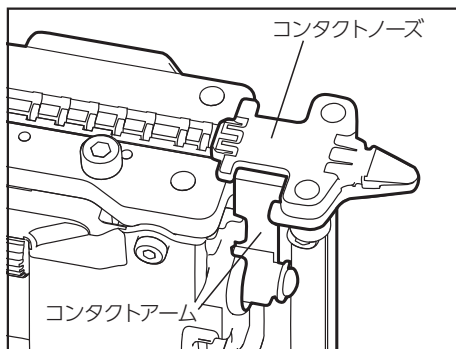
⑦コンタクトノーズA、Bを位置を合わせ、六角穴付ボルトをしっかりと締めてください。



⚠ 注意

●ドライバガイド、コンタクトノーズA、コンタクトノーズB、ドライバに詰まったピンネイルの破片が残っていない事を確認してください。

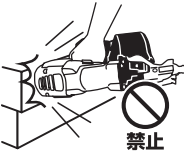
⑧コンタクトノーズの位置を確認し、ドライバガイドの位置を合わせ、六角穴付ボルトをしっかりと締めてください。



保守・点検

本機を大切に使う

落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。



繰り返しカラ打ちをしない

ピンネイルを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

エア圧力を調整し、使用する

打込対象物に合わせ必ず空気圧を調整し、使用してください。
対象物に対して空気圧が高すぎるまま使用しますと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

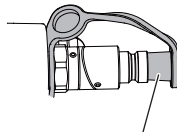
指定オイルを注油する

オイルはタービン油2種ISO VG32 (JIS K 2213) を必ずお使いください。使用前にフリープラグの小穴からオイルがあふれる程度に、エアプラグの口から2~3滴、注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはフリープラグにキャップを装着してください。



エアプラグキャップ

エアコンプレッサのタンク、補助タンクの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンクに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

定期的に清掃する

本機の性能を維持するために清掃を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス(株)にお申し付けください。

清掃方法

- ・砂やゴミがついたらエアダスタで飛ばしてください。
- ・トリガの裏もエアダスタで飛ばしてください。
- ・布できれいに拭いてください。

射出口(コンタクトノーズ)の点検

トリガをロックし、エアホースを外した状態で射出口(コンタクトノーズ)がスムーズに動くか確認してください。
射出口(コンタクトノーズ)の可動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。
油を注ぐことにより、スムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。

ピストンリングの点検

ピストンリングは、消耗品です。ドライバがズルズルと落ちてきたら、お買い求めの販売店、又はマックスエンジニアリングサービス(株)にお申し付けください。

作業後の保管

- ※作業後はピンネイルを全部抜き取ってください。
- ※エアプラグにエアプラグキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。
- ・作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、エアプラグキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。
- ・長期間使用しない場合は、さび防止のため、エアプラグから給油し、2,3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
- ・鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
- ・油は、付属の油をご使用ください。
- ・お客様の手の届かない、乾燥した場所に保管してください。

保証、アフターサービスについて

保証について

- 本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

アフターサービスについて

- 本機の調子が悪いときは、使用を中止して、ご購入求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス(株)にご相談ください。
 - 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
 - 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。
- ※本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

マックス株式会社

●販売拠点等

本社	〒103-8502	東京都中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8121
札幌支店	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 261-7141
仙台支店	〒984-0015	宮城県仙台市若林区卸町5-3-4	TEL (022) 236-4121
盛岡営業所	〒020-0824	岩手県盛岡市東安庭2-10-7	TEL (019) 621-3541
東京支店	〒103-8502	東京都中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8101
多摩営業所	〒190-0022	東京都立川市錦町5-17-19	TEL (042) 528-3051
東横店	〒300-0811	茨城県土浦市上高津915-1	TEL (029) 835-7322
千葉営業所	〒284-0001	千葉県四街道市大日1870-1	TEL (043) 422-7400
群馬営業所	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (027) 353-7075
長野営業所	〒399-0033	長野県松本市笹賀8155	TEL (0263) 26-4377
新潟営業所	〒955-0081	新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 34-2112
名古屋支店	〒462-0819	愛知県名古屋市中区平安2-4-87	TEL (052) 918-8619
静岡営業所	〒420-0067	静岡県静岡市葵区幸町29-1	TEL (054) 205-3535
大阪支店	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川11-3-18	TEL (06) 6444-2031
京滋営業所	〒612-8414	京都府京都市伏見区竹田段川原町195	TEL (075) 645-5061
神戸営業所	〒650-0017	兵庫県神戸市中央区榑町6-2-4ハーバースカイビル1F	TEL (078) 367-1580
沖縄営業所	〒901-2127	沖縄県浦添市屋富祖1-5-11	TEL (098) 875-3577
広島支店	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-6331
福岡支店	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1丁目5-1	TEL (092) 411-5416
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島県鹿児島市東開町3-24	TEL (099) 269-5347
マックス販売株式会社 本社	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 651-5346
埼玉営業所	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 651-5341
横浜営業所	〒241-0822	神奈川県横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045) 364-5661
金沢営業所	〒921-8061	石川県金沢市森戸2-15	TEL (076) 240-1871
岡山営業所	〒700-0971	岡山県岡山市北区野田3-23-28	TEL (086) 246-9516
四国営業所	〒761-8056	香川県高松市上天神町761-3	TEL (087) 866-5599
松山営業所	〒790-0036	愛媛県松山市小栗6-1-22第1白石ビル1F	TEL (089) 913-1893

●マックスエンジニアリングサービス(株)

札幌サービスステーション	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 231-6487
仙台サービスステーション	〒984-0015	宮城県仙台市若林区卸町5-3-4	TEL (022) 237-0778
新潟サービスステーション	〒955-0081	新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 35-7252
高崎サービスステーション	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (027) 350-7820
埼玉サービスステーション	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 667-6448
名古屋サービスステーション	〒462-0819	愛知県名古屋市中区平安2-4-87	TEL (052) 918-8624
京滋サービスステーション	〒612-8414	京都府京都市伏見区竹田段川原町195	TEL (075) 645-5062
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川11-3-18	TEL (06) 6446-0815
広島サービスステーション	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-5670
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1丁目5-1	TEL (092) 451-6430

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

4101569
190319-00/00

便利メモ

お名前	商品名	HA-50P4 (D)・TA-250P3 (D)	
お買い上げ日	年	月	日
販売店名	製造番号	☎	